

令和3年度 第1回食育推進部会（報告）

- 1 日時 令和3年8月17日（火）14:00～16:00
- 2 場所 オンライン開催
- 3 出席 委員7名（部会長：伊達委員、委員：芦田委員、今村委員、榊委員、佐々木委員、田中委員（代理出席）、登里委員（50音順）※欠席 立助委員（兵庫県PTA協議会長）
7課1室：男女家庭課、消費生活課、私学教育課、地域福祉課、生活衛生課、総合農政課楽農生活室、社会教育課、体育保健課）
- 4 意見 食育推進計画（第4次）骨子、指標及び目標値への主なご意見は下記のとおり。
キャッチフレーズ「食で育む 元気なひょうご “実践の「わ」を広げよう”」は全員賛同。
人の輪（わ）は農林水産業従事者に限定せず、食育推進に関わる全ての関係者（県民含む）とする。

（伊達部会長：兵庫県立大学名誉教授）

- SDGsのピクトグラムを鮮明に、説明書きも記載して欲しい。
- コロナの変化に耐えうる食育、ひょうご5つの国の特徴がうまく出せるとよい。
- 地域での共食の場の増加に関して、「子ども食堂」に限定せず、高齢者も含めた「地域食堂」などにしてはどうか。

（芦田委員：神戸大学大学院農学研究科教授）

- 持続可能な開発目標(SDGs)は重要なキーワードであるが、最近では種々の計画で多用されているため、見せ方の工夫が必要。県としての特徴を出して欲しい。
- 全体的に若年層に偏りがちな印象。超高齢社会の到来に向け、高齢者への食育推進に関する指標があってもよいのではないか。例えば、ロコモ対策（骨と筋肉の健康）、フレイルや認知症対策も重要。
- 歯科保健に関する食育推進に関して、8020運動は成功している。出来ていない部分を引き上げてはどうか。計画本文には、歯周病やオーラルフレイルに関する内容を充実した方がよい。
- 柱1について、「子どもや若い世代」に加え、「子どもとその親、若い世代」としてはどうか。
若い世代では20～30代をイメージするが、子どもへの食育を考えるとその親には40代も含まれるため。

（今村委員：小学校長会理事）

- 児童は地場産物が組み込まれた献立を喜んで喫食している。出来るだけ残食を出さない工夫をしている。自ら食べられる量を認識して、配膳喫食している。

（榊委員：(公社)兵庫県栄養士会長）

- 学校給食の献立内容は地場産品の使用割合も含め、地域で差がある。
- 食品ロス問題も顕著。ロスとなる食品を子ども食堂や通いの場などに提供支援できるとよい。

(佐々木委員：公募委員)

- フルル対策も習慣化させることが大切。高齢になってからでは遅く、若い世代からの対策が重要。
- コト禍の中、自宅で調理をする人も増えている。惣菜、弁当ではなく、ミールキット形式を利用される方も増えている。企業と宅配業者との連携により、ミールキットの中身として郷土食や地場産品等を積極的に組み入れていくことも良いと思う。
- 食品ロスに関して、食材を廃棄することを問題視していない人も多い。先日、高校生からアルバイト先で残った食材は平気で廃棄しているという話を伺った。企業や自治体、事業者が取り組む食育として食品ロスに関することを記載できるとよい。

(田中委員（代理出席 田中理事）：兵庫県漁業協同組合連合会)

- 出前教室を通して、子どもたちに体験型の食育を伝えている。魚食普及。

(登里委員：兵庫県いずみ会長)

- 市町の食育推進計画について取り組みの状況を把握することも重要。
- 郷土料理や行事食の普及啓発が重要。
→計画本文に「ひょうご5つの国」を意識した郷土料理 mapを記載する。伝統的な郷土料理や行事食に加え、新たな食文化として地域で根付いている料理（姫路おでん、明石焼きなど）も記載したい。

(その他)

- 子どもの朝食摂取率 100%の目標については、これから先も未達成が予測されるが、100%のままでいくのか。→兵庫県食育推進計画（第1次：H19～23）から 100%。理念目標であり、国計画においても 100%であるため、再検討は必要であるが、現時点では目標値の変更は予定していない。

5 今後の予定

9月24日（金）第2回食育推進部会（計画本文の検討）

⇒計画本文の記載は、関係各課へ依頼する。（9月6日締切り）

指標や目標値を掲げている項目については、その達成に向けての具体的な推進方策を明記していただきたい。